

2013

9/22  
(日)



### 第1回ちくりん舎シンポジウム

3.11。原発の安全神話が崩壊し、放射能がバラ撒かれた。そして今、放射能と共に全国にひろがる、放射能安全神話。権力に利用される科学を、市民の手に取り戻すため、私たちにできることは……。

### 見学会

◆同日の午前中、ちくりん舎（市民放射能監視センター）の見学会をおこないます。

集合 10:30 JR 青梅駅改札口

申込 メール：chikurin@kdp.biglobe.ne.jp

FAX : 0465-83-4404

定員 30名（申し込み順） 参加費無料

\*見学会修了後、車でシンポジウム会場までお送りします。

\*昼食は各自持参（シンポジウム会場周辺にもコンビニ、食堂あり）

# いのちを切り捨てる科学から いのちを守る科学へ

～ 3.11 後における市民科学の役割～

14:00 ～ 17:00

青梅市福祉センター（JR 青梅線・東青梅駅南口）  
徒歩7分・駐車場あり

参加費 500円 ★保育あり（裏面参照）



## 第1部 しまぞの 島菌 進 さんのお話

宗教学者。東京大学大学院人文社会系研究科名誉教授。上智大学グリーンフケア研究所所長。原発を支える御用学者や倫理観の欠如を鋭く批判。

## 第2部 パネルディスカッション

話題提供 フクロウの会（福島老朽原発を考える会）・たまあじさいの会

主催 ちくりん舎（市民放射能監視センター） 後援 高木仁三郎市民科学基金



## しまその 島蘭 進さん プロフィール

宗教学・死生学・生命倫理の研究者だが、もともと医学を志していたこともあって、現代の医学・医療の問題について考えてきた。

『悪夢の医療史』という共編著もある。

3.11後、低線量放射線の健康影響についての専門家の情報が偏ったものであることに問いを向け、『つくられた放射線「安全」論』という本をまとめた。

日本学会議会員、元日本宗教学会会長。



## ちくりん舎とは

- ちくりん舎は、市民放射能監視センターの愛称です。
- ちくりん舎は、フランスの放射能分析市民NGOである<sup>アクロ</sup>ACROよりゲルマニウム半導体測定器を寄贈されたことをきっかけに、立ち上げられた市民団体です。
- ちくりん舎は行政から独立して放射能汚染を監視・測定、情報発信する、市民団体・個人からなる会員組織です。(NPO申請中)
- 詳しくは、HPをご覧ください。<http://chikurin.org/>



## フクロウの会 (福島老朽原発を考える会)

放射能汚染や事故の心配がなく、放射性廃棄物を生み出さない社会をめざして首都圏で活動。

3.11福島原発事故以降、人々への被ばくが少しでも少なく抑えられるよう情報提供、放射能測定、国や自治体への働きかけなどを行っている。ACROからゲルマニウム半導体測定器の寄贈を受け、ちくりん舎発足を呼びかけた団体。

## たまあじさいの会

日の出町の二つの巨大なゴミ最終処分場の周辺環境への汚染と被害が実体化してくる中で、「自らの命・健康・環境は、自ら守る」ことに追い詰められた、日の出町や青梅市の市民が一市民による環境調査「たまあじさいの会」を発足させ活動を開始。未来世代に対しても責任を持てるゴミ処理の実現を目指して、活動に取り組む。

## ◆保育申込について

定員：10名(申し込み順)

費用：100円

申込：下記のことを明記の上、FAXまたはメールでお申込みください。

- ①保護者の氏名・連絡先
- ②お子さんの氏名・年齢・性別
- ③アレルギー等の留意点

締切：9月12日(木)

連絡先：chikurin@kdp.biglobe.ne.jp

0465-83-4404 (FAX)



## ◆会場案内図 (青梅福祉センター)

